

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	中川千草
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>在籍中（2012 年 4～8 月）における研究テーマは、「日本の過疎・高齢化社会における地域資源の利用と管理のあり方」であった。地方社会における地域資源の管理のあり方をあきらかにすることを目的とした調査研究活動をおこなってきたことを受け、GCOE プログラム内ではこのテーマを継続しつつ、資源を人間がコントロール可能なものとして位置づける視点をいったん留保し、資源と人間との「交渉」場面を現代社会の変容と照合しながら考察することに重点を置いた。特に、「地方社会における親密圏と公共圏の再構築－災害の文化化という観点から－」を主題とし、当該社会の親密圏と公共圏の現状と変容プロセスをあきらかにすることを視野に入れた、研究活動を実施した。</p> <p>また、2012 年度次世代研究出版プロジェクト「交差する「親密圏」・つなぎ合う「公共圏」としてのフィールド：調査者と協力者、異なるポジショナリティ間の交渉の場からの考察」のメンバーとして各研究会に参加し、「親密圏」と「公共圏」という概念をより実証的に再検討を試みた。特に、フィールドワークにおける調査者と被調査者のインタラクションに注目し、交差しあう親密圏としてのフィールドにおいて、行為者間の異なるポジショナリティが再帰的に自覚されていく場面、および社会のより多くの人々と研究成果が共有されること、つまり、こうした差異を包摂する「公共圏」を再編する可能性について議論を重ねた。</p> <p>在籍期間が短かったため、上述したテーマについての成果を十分に出すことはできなかったが、今後の研究活動につながる知識と経験が得られたと考える。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>◎論文</p> <p>中川千草，印刷中，「音楽との戯れ方－ギニア・コナクリにおける路上パフォーマンスと鼻歌を例に－」，嶋田義仁編『イスラーム圏アフリカ論集』Ⅴ，名古屋大学大学院文学研究科比較人文学研究室，88-89.</p> <p>◎報告</p> <p>Chigusa Nakagawa, 2012, The local resource governance in underpopulated &amp; aging society : Japanese spiny lobster fishing in Kumano sea, 2012 PACON Conference, in Hawaii</p>	